



千葉看護学会会誌

JOURNAL OF CHIBA ACADEMY OF NURSING SCIENCE

VOL.24 NO.2 FEBRUARY 2019

第24巻第2号 平成31年2月

[総説]

救急・集中治療領域の看護師が終末期患者の家族支援に対して
困難を感じる状況に関する文献研究

西開地由美 吉本 照子

[原著]

重い精神障害をもつ人に対する精神科訪問看護支援の要素

天野 敏江

精神科急性期病棟で実施された集団心理教育の地域生活での活用
—統合失調症患者の体験を通して—

的場 圭 遠藤 淑美

災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための
支援の検討 (第1報)
—発達障害児の親の自然災害への備えの実情—

細谷 紀子 石丸 美奈
宮崎美砂子

災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための
支援の検討 (第2報)
—発達障害児の親の地域社会生活におけるレジリエンス—

細谷 紀子 石丸 美奈
宮崎美砂子

別居の娘による親に対する介護の内容

姫野 雄太 石丸 美奈
飯野 理恵 宮崎美砂子

介護付有料老人ホームに勤務する看護職者が
入居者と家族への支援において重要視していること

久長 正美 諏訪さゆり
辻村真由子

経営の危機的状況の予防に着目した訪問看護ステーション管理者の
経営管理行動指標試案の有用性・実用可能性の検証

山口 絹世 吉本 照子

看護師長が講じている医療事故防止対策

上國料美香 舟島なをみ

(裏面へ続く)

[千葉看護学会第24回学術集会報告]

会長講演

看護が挑むソーシャルイノベーション

奥 朋子

基調講演

コミュニティデザインと看護の可能性

三輪 恭子

パネルディスカッション

発表演題一覧（口演・示説・交流集会）

[平成30年度総会報告]

平成30年度千葉看護学会総会議事録

千葉看護学会会則

千葉看護学会会誌投稿規程

千葉看護学会会誌専任査読者一覧・編集後記

編集委員会

Review Article

PREDICAMENTS FOR NURSES SUPPORTING THE FAMILIES OF
TERMINAL-STAGE PATIENTS IN EMERGENCY CARE OR
INTENSIVE CARE UNITS FIELD:
LITERATURE REVIEW

Yumi Nishikaichi
Teruko Yoshimoto

Original Articles

ELEMENTS OF PSYCHIATRIC HOME-VISITING NURSING SUPPORT FOR
PATIENTS WITH SEVERE MENTAL ILLNESS

Toshie Amano

GROUP PSYCHOEDUCATION IN A PSYCHIATRIC ACUTE WARD APPLIED TO
COMMUNITY LIVING
- THE EXPERIENCE OF PATIENTS WITH SCHIZOPHRENIA -

Kei Matoba
Yoshimi Endo

CONSIDERATIONS FOR SUPPORTING THE BUILDING OF CONNECTIONS WITH
ONE'S LOCAL COMMUNITY AS PART OF DISASTER PREPAREDNESS (PART 1):
THE ACTUAL STATE OF NATURAL DISASTER PREPAREDNESS OF PARENTS OF
CHILDREN WITH DEVELOPMENTAL DISORDERS

Noriko Hosoya
Mina Ishimaru
Misako Miyazaki

CONSIDERATIONS FOR SUPPORTING THE BUILDING OF CONNECTIONS WITH
ONE'S LOCAL COMMUNITY AS PART OF DISASTER PREPAREDNESS (PART 2):
RESILIENCE IN LOCAL COMMUNITY LIFE OF PARENTS OF CHILDREN WITH
DEVELOPMENTAL DISORDERS

Noriko Hosoya
Mina Ishimaru
Misako Miyazaki

CONTENTS OF LONG-TERM CARE TO THE PARENTS OF A DAUGHTER IN
SEPARATED LIVING CONDITIONS

Yuta Himeno
Mina Ishimaru
Rie Iino
Misako Miyazaki

VIEWS OF NURSES WORKING IN PRIVATE NURSING HOMES PROVIDING
CAREGIVING THAT IS IMPORTANT TO SUPPORTING RESIDENTS AND
THEIR FAMILIES

Masami Hisanaga
Sayuri Suwa
Mayuko Tsujimura

VERIFICATION OF THE EFFICIENCY AND FEASIBILITY OF THE TENTATIVE
INDICES OF BUSINESS MANAGEMENT BEHAVIOR FOR MANAGERS OF
VISITING NURSING STATIONS THAT FOCUS ON PREVENTION OF
MANAGERIAL CRISIS SITUATIONS

Kinuyo Yamaguchi
Teruko Yoshimoto

MEASURES BY HEAD NURSES FOR PATIENT SAFETY ON HOSPITAL WARDS

Mika Kamikokuryo
Naomi Funashima

The 24th Academic Conference

Chairperson Lecture
Keynote Speech
Panel Discussion Report
Oral • Poster Session

Proceedings of the Society



目 次

〔総 説〕

救急・集中治療領域の看護師が終末期患者の家族支援に対して 困難を感じる状況に関する文献研究	西開地 由 美 吉 本 照 子	1
--	--------------------	---

〔原 著〕

重い精神障害をもつ人に対する精神科訪問看護支援の要素	天 野 敏 江	11
精神科急性期病棟で実施された集団心理教育の地域生活での活用 —統合失調症患者の体験を通して—	的 場 圭 遠 藤 淑 美	21
災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための 支援の検討（第1報） —発達障害児の親の自然災害への備えの実情—	細 谷 紀 子 石 丸 美 奈 宮 崎 美砂子	31
災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための 支援の検討（第2報） —発達障害児の親の地域社会生活におけるレジリエンス—	細 谷 紀 子 石 丸 美 奈 宮 崎 美砂子	43
別居の娘による親に対する介護の内容	姫 野 雄 太 石 丸 美 奈 飯 野 理 恵 宮 崎 美砂子	55
介護付有料老人ホームに勤務する看護職者が 入居者と家族への支援において重要視していること	久 長 正 美 諏 訪 さゆり 辻 村 真由子	65
経営の危機的状況の予防に着目した訪問看護ステーション管理者の 経営管理行動指標試案の有用性・実用可能性の検証	山 口 絹 世 吉 本 照 子	75
看護師長が講じている医療事故防止対策	上國料 美 香 舟 島 なをみ	85

〔千葉看護学会第24回学術集会報告〕

会長講演 看護が挑むソーシャルイノベーション	奥 朋 子	97
基調講演 コミュニティデザインと看護の可能性	三 輪 恭 子	100
パネルディスカッション		102
発表演題一覧（口演・示説・交流集会）		105

[平成30年度総会報告]					109
平成30年度千葉看護学会総会議事録					
千葉看護学会会則					120
千葉看護学会会誌投稿規程					123
千葉看護学会会誌専任査読者一覧・編集後記			編集委員会		125

『千葉看護学会会誌』は、平成29年11月10日から「医中誌Web」「最新看護索引Web」から「千葉大学学術成果リポジトリCURATOR」公開論文へのリンク、および、23巻1号からDOI付与が開始され、発信力が強化されました。

また、電子投稿システムEditorial ManagerでのORCID（オーキッド：著者識別子）設定も可能となり、所属先が変わっても識別が容易になりました。Editorial Managerにぜひログインしてみてください。

<http://www.editorialmanager.com/cans/Default.aspx>

千葉看護学会会則

第一章 総則

- 第1条 本会は、千葉看護学会（Chiba Academy of Nursing Science）と称す。
- 第2条 本会の事務局を千葉大学看護学部内に置く。
- 第3条 本会は看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的とする。
- 第4条 本会は第3条目的を達成するための次の事業を行う。
- 一 学術集会の開催
 - 二 総会の開催
 - 三 学会誌の発行
 - 四 その他本会の目的達成に必要な事業

第二章 会員

- 第5条 本会の会員は、本会の目的に賛同する看護学を研究する者で、理事会の承認を得た者をいう。
- 第6条 本会に入会を認められた者は、所定の年会費を納入しなければならない。
- 第7条 会員は、次の理由によりその資格を喪失する。
- 一 退会
 - 二 会費の滞納（2年間）
 - 三 死亡または失踪宣言
 - 四 除名
- 2 退会を希望する会員は、理事会へ退会届を提出しなければならない。
- 3 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあった会員は、評議員会の議を経て理事長が除名することができる。
- 第8条 名誉会員は、看護学の発展と会員相互の学術的研鑽に多大に寄与した者を、理事長が推薦し、理事会、評議員会の議を経て、総会で承認する。
- 2 名誉会員は、評議員会に出席し意見を述べることができる。
 - 3 名誉会員は、会費の納入を必要としない。

第三章 役員・評議員および学術集会会長

- 第9条 本会に次の役員をおき、その任期は3年とし再任を妨げない。但し、引き続き6年を超えて在任することはない。
- 一 理事長 1名
 - 二 副理事長 1名
 - 三 理事 10名程度（理事長 副理事長を含む）
 - 四 監事 2名
- 第10条 役員を選出は次のとおりとする。
- 一 理事長は、理事の互選により選出し、評議員会の議を経て総会の承認を得る。
 - 二 副理事長は理事の中から理事長が指名し、評議員会の議を経て総会の承認を得る。
 - 三 理事および監事は、評議員会で評議員の中から選出し総会の承認を得る。
 - 四 理事長は、会員の中から指名理事3名以内を指名することができる。指名理事は、総会の承認を得る。

第11条 役員は次の職務を行う。

- 一 理事長は、本会を代表し会務を統括する。
- 二 副理事長は、理事長を補佐し、理事長事故あるときはこれを代行する。
- 三 理事は、理事会を組織し、会務を執行する。
- 四 監事は、本会の事業および会計を監査する。

第12条 本会に評議員を置く。評議員の定数及び選出方法は別に定める。

第13条 評議員の任期は、3年とし再任を妨げない。但し、引き続き6年を超えて在任することはできない。

2 評議員が辞任した時は、評議員選挙における次点者が、在任期間その任に当たるものとする。

第14条 評議員は評議会を組織し、この会則に定める事項のほか理事長の諮問に応じ、本会の運営に関する重要事項を審議する。

第15条 本会に学術集會会長を置く。

第16条 学術集會会長は、評議員会で会員の中から選出し、総会の承認を得る。

第17条 学術集會会長の任期は、1年とし再任は認めない。

第18条 学術集會会長は、学術集會を主宰する。

第四章 会議

第19条 本会に次の会議を置く。

- 一 理事会
- 二 評議員会
- 三 総会

第20条 理事会は、理事長が召集しその議長となる。

2 理事会は、毎年1回以上開催する。但し、理事の3分の1以上から請求があったときは、理事長は、臨時に理事会を開催しなければならない。

3 理事会は、理事の過半数の出席をもって成立とする。

第21条 評議員会は、理事長が召集しその議長となる。

2 評議員会は毎年1回開催する。但し、評議員の3分の1以上から請求があったときおよび理事会が必要と認めたととき理事長は、臨時に評議員会を開催しなければならない。

3 評議員会は評議員の過半数の出席をもって成立とする。

第22条 総会は、理事長が召集し、学術集會会長が議長となる。

2 総会は、毎年1回開催する。但し、会員の5分の1以上から請求があったときおよび理事会が必要と認めたととき理事長は、臨時に総会を開催しなければならない。

3 総会は、会員の10分の1以上の出席または委任状をもって成立とする。

第23条 総会は、この会則に定める事項のほか次の事項を議決する。

- 一 事業計画および収支予算
- 二 事業報告および収支決算
- 三 その他理事会が必要と認めた事項

第24条 総会における議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第五章 学術集會

第25条 学術集會は、毎年1回開催する。

第26条 学術集會会長は、学術集會の運営および演題の選定について審議するため、学術集會企画委員を委嘱し、委員会を組織する。

第六章 各種委員会

第27条 本会は、本会の事業を推進するために、各種委員会を設置する。

2 各種委員会規定については、理事会で別に定める。

第七章 会計

第28条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日で終わる。

第八章 会則の変更

第29条 本会の会則を変更する場合は、理事会および評議員会の議を経て総会の承認を必要とする。

2 前項の承認は、第23条の規定にかかわらず出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

第九章 雑則

第30条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、別に定める。

附則 この会則は、平成6年6月25日から施行する。

この会則は、平成11年9月18日から施行する。

この会則は、平成19年9月22日から施行する。

この会則は、平成28年9月10日から施行する。

千葉看護学会会誌投稿規程

1 学会誌の趣旨

設立理念である「実践と研究の往還」の共有のもと、看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていくための研究、現実の諸問題を解決するための実践的研究を発信する学術誌である。学会誌の発行を通して、会員相互の学術的研鑽を図り、看護学の発展に寄与する。

2 投稿者

投稿者は、共著者を含め全員が千葉看護学会の会員とする。投稿の際、全員の会員番号を明記する。但し、編集委員会から依頼された原稿についてはこの限りでない。

共著者は、投稿された論文に重要な知的貢献をした者であり、全ての著者が内容について承諾していることとする。

3 論文の種類

1) 論文の種類は、総説、原著、実践報告、その他であり、それぞれの内容は下記の通りである。

【総説】：看護学の特定のテーマについて多面的に国内外の知見を収集し、当該テーマについて総合的に学術的状況を概説し、論理的に課題を明示したもの。

【原著】：独創的で新たな知見が論理的に示されており、看護学の知識として意義の高いもの。研究論文の要件を満たし、実践と研究の往還を具現化する完成度のある論文。

【実践報告】：看護学の発展に寄与すると認められる独創的な実践（教育を含む）について内容・方法および効果を質的、量的データをもとに検証し、学術的意義を明示した論文。

【その他】：看護学あるいは看護学の研究に対する意見、提言等で編集委員会が適当と認めたもの。

2) 論文の種類別の制限枚数（図表、引用文献を含む。抄録は除く）は、下記の通りである。

論文の種類	和文	英文
総説	6頁(13,500字)	5頁(4,750語)
原著	7頁(15,750字)	6頁(5,700語)
実践報告	7頁(15,750字)	6頁(5,700語)
その他	2頁(4,500字)	1頁(950語)

3) 論文の内容は、未発表のものに限る。

4) 総説、原著、実践報告は、和文抄録(600字程度)、英文抄録(250語程度)をつける。

4 原稿作成上の留意点

1) 文字は、平かな、口語体、新かなづかいとし、句読点を明確に記す。

2) 1桁の数字は全角入力、2桁以上の数字は半角入力、欧文の大文字・小文字は半角入力とする。

3) 文中の欧語は、原則として頭文字を小文字とする。ただし、文頭の外国語、人名、ドイツ語名詞、商品名の頭文字は大文字とする。

4) 文献は、引用・参考文献の別に、以下のように提示する。【雑誌】は、著者名(共著者全員)：論文題名、雑誌名、巻(号)：頁-頁、西暦年。の順に示す。

【単行書】は、著者名：書名(監修者名)、版、出版社名、西暦年。の順に示す。【WEBサイト】からの引用は、URLの後に検索日を括弧でくくって示す。

5) 引用文献は、本文中の引用順に番号を付し、年号の前に引用頁を示す。参考文献は、50音順またはアルファベット順に番号をつけて示す。雑誌名は、Indexmedicusまたは慣用略称を用いる。

6) 単位は、m、cm、pm、ml等と表示する。一般的でない略語は、論文の初出のところで正式用語とともに提示してから用いる。

5 投稿方法

1) 投稿原稿の様式等

・和文及び英文とする。

・和文の場合は、A4用紙縦、ワードプロセッサー使用、2段組み、1頁は2,250文字(25字×45行×2段=2,250字)の横書きとする。

・英文の場合は、A4縦、2段組、60行で1頁900~950語程度とする。

・原稿ファイルは、論文原稿、図、表に分けて作成する。

・論文原稿には、氏名、標題、抄録は入れず、最後に、文字数(スペースを含める)を示す。頁ごとに行番号を付す。

・論文原稿内に所属・氏名等、投稿者を特定できる標記がある場合にはマスキングする。

・和文抄録、英文抄録は、直接、投稿システムに入力する。

・謝辞、助成、利益相反等に関する内容は、論文原稿の中に入れる。

・図表の幅は、2段組の一段分(半幅)または二段分(全幅)のいずれかとする。論文原稿内に、著

者が挿入する部分を示す。

- 2) 投稿は、電子投稿査読システムで行う。事前にシステムのユーザー登録をしておく。
- 3) 投稿時には、学会ホームページ及び電子投稿査読システムに示されている投稿論文チェックリストをダウンロードし、原稿の点検確認を行う。
- 4) 電子投稿査読システムの指示に従って、以下を入力する。

論文種別、標題（和文・英文）、著者情報（全著者の姓名、所属先名、メールアドレス）、抄録、欧文キーワード（3～4個）、追加著者情報（共著者を含めた全著者の会員番号）。

- 5) 原稿等のファイルをアップロードする。

6 論文の採否と掲載順

論文の採否と掲載順は、査読を経て、編集委員会において決定する。一旦投稿した原稿は、返却しない。

なお、採用された原稿については、掲載予定証明書の発行ができる。

7 校正

著者校正は、初校のみとする。校正時の新たな加筆は認めない。

8 著作権

著作権は本学会に帰属する。掲載後は本学会の承諾なしに他誌に掲載することを禁ずる。最終原稿提出時、編集委員会より提示される著作権譲渡同意書に著者全員が自筆署名し、論文とともに送付すること。

9 掲載料

掲載料は無料とする。別刷りは全て著者負担とする。

10 最終原稿送付先及び問い合わせ先

最終原稿送付および問い合わせ先は、下記とする。

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院看護学研究科内

千葉看護学会編集委員会事務局

附則 本規定の改正は、平成27年2月11日より施行する。

千葉看護学会会誌専任査読者一覧

青柳 寿 弥	阿部 恭 子	雨宮 有 子	荒木 暁 子
池田 清 子	石井 邦 子	石川 かおり	石川 志 麻
石川 麻 衣	石橋 みゆき	石丸 美 奈	石村 佳代子
市原 真 穂	井手 知恵子	井出 成 美	伊藤 道 子
伊藤 隆 子	上野 ま り	牛尾 裕 子	内海 香 子
遠藤 淑 美	大石 ふみ子	大澤 真奈美	大平 光 子
緒方 久美子	小川 純 子	小野 幸 子	春日 広 美
金丸 友	金子 仁 子	河井 伸 子	川城 由紀子
河原 宣 子	河部 房 子	川本 利恵子	菅野 久 美
北川 公 子	北山 三津子	工藤 美 子	黒田 久美子
黒田 寿美恵	桑原 ゆ み	小坂 美智代	小西 美ゆき
小宮 浩 美	小室 佳 文	近藤 真紀子	斉藤 しのぶ
酒井 郁 子	櫻井 美 和	定廣 和香子	佐藤 奈 保
佐藤 紀 子	佐藤 正 美	佐藤 まゆみ	佐藤 由 美
澤田 いずみ	嶋澤 順 子	島田 広 美	清水 安 子
塩飽 仁	杉田 由加里	鈴木 啓 子	鈴木 美 和
瀬戸 奈津子	高橋 良 幸	竹内 幸 江	田所 良 之
田中 美延里	田中 裕 二	谷本 真理子	田村 須賀子
辻村 真由子	戸田 肇	鳥田 美紀代	仲井 あ や
長坂 育 代	永野 みどり	長畑 多 代	中村 伸 枝
中村 康 香	中山 登志子	新村 順 子	西野 郁 子
二宮 啓 子	野崎 章 子	野本 百合子	長谷川 ともみ
春山 早 苗	藤田 美 江	古谷 佳由理	星野 美 穂
細谷 紀 子	本田 彰 子	前原 邦 江	増島 麻里子
松岡 真 里	松下 光 子	丸谷 美 紀	丸山 優
水野 照 美	宮崎 美砂子	宮芝 智 子	森本 悦 子
八島 妙 子	安田 貴恵子	山下 裕 紀	山田 洋 子
山本 裕 子	湯浅 美千代	横山 京 子	吉沢 豊子子
吉田 千 文	米山 奈奈子	両羽 美穂子	和住 淑 子

(敬称略, 五十音順)

編集後記

編集委員となって2期目、約4年となります。本誌に投稿される研究論文を見ていると、看護の本質的な問題や誰も手をつけていないトピックスを手掛けた研究ばかりだと感じます。それだけに当初は荒削りなところもありますが、査読者のコメントを受けて修正する中で磨かれていきます。査読者が新しいテーマや研究方法を適切に評価し、公表するに値する論文としては何が不足し、何が必要かを示し、著者がそれに応えるという相互作用のもとで論文が完成されるのです。

本号では総説1編、原著論文8編の計9編を掲載しています。ご多忙な中、査読の労をとっていただいた査読者の方々、査読に応じて論文を完成させてくださった著者の皆様に感謝いたします。本号には第24回学術集会報告も掲載されています。お読みいただき、学術集会の熱気を感じていただければ幸いです。

本誌はオンライン投稿審査システム Editorial Manager[®]によって投稿、査読のやりとりが進められます。著者、査読者、編集委員会がある程度共通した看護の基盤をもち、誠意あるやりとりを心がけているからこそ円滑に進められるのだと感じます。しかし、システムは設定されたとおりにしか動けません。細かな配慮やチェックができないことがありますので、不明な点がありましたら早めに事務局にご確認ください。

(編集委員 湯浅美千代)

編集委員

委員長 増 島 麻里子

委員 上 野 まり 岡 田 忍 河 部 房子

黒 田 寿美恵 佐 藤 奈 保 鈴 木 悟 子

中 村 伸 枝 野 崎 章 子 眞 嶋 朋 子

森 本 悦 子 湯 浅 美千代

(敬称略, 五十音順)

千葉看護学会会誌に掲載された論文等の著作権は千葉看護学会に帰属する

千葉看護学会会誌

第24巻第2号

平成31年2月28日発行

発行所 千葉看護学会

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院看護学研究科内

千葉看護学会編集委員会事務局

TEL 043-226-2436 FAX 043-226-2436

代表者 石 丸 美 奈

印刷所 株式会社 正文社

〒260-0001 千葉市中央区都町1-10-6

TEL 043-233-2235 FAX 043-231-5562
